

可決 4億4849万円



民間のバイオマス発電所を視察（北海道）

6月10日より19日までの10日間、平成26年第2回定例会が開かれました。初日の一般質問には、6議員が登壇し、村政を問いました。村提出案件は計13件で、その他、発委3件を審議し、可決しました。一般会計補正予算では、一部増額の修正動議が提出され、2対11で否決された後、原案を11対2で可決しました。

バイオマス発電事業調査の継続で論争

今回の一般会計補正予算は5億1270万3千円増額で、内容は、農業施設雪害補助金4億4849万円、南部コミュニティー改修事業費5千万円、保育士処遇改善補助金562万8千円、子育て世代臨時給付金373万円等を増額し、バイオマス発電事業調査研究費358万5千円を減額するものです。

発電事業調査の継続を

補正予算を組むべき

問 バイオマス発電事業調査費385万5千円を計上した26年度当初予算を3月定例議会において、全員賛成で可決したばかりであるのに、バイオマス発電事業調査を中止する理由を説明してください。

答 村長 当初予算は、10割の補助金でした。消化できないということで、検討の結果、発電事業調査を中止することを決断しました。

問 この事業は、村民のみなさんを巻き込んで行ってきたわけですから、もっと、しっかり調査研究しなければならぬと思いませんか。村民が納得できる説明ができますか。

答 村長 懸念材料が3点浮上しました。私としては、問題点が見えた段階で中止するのが適当と考え決断しました。要請があれば、村民のみなさんに説明したいと思えます。

問 議員必携には補正予算について、一般的に当初予算編成時に予期できなかった制度の改正、事情の変更や公共事業費の配分決定によるものが多いと書かれています。二つの具体例のうち、国・県の補助金、負担金、交付金等の確定によるものもあり、まさにこれに該当しています。何億というお金ではなく、100万円余りの金額ですから、補正予算を組むべきではないですか。

答 村長 一円でも、一億円でも村民から預かってはお金は同じだと考えています。補正予算を組むには、将来を見据えて有効適切な使い方を考慮する観点から、今回は、削減された3割分を補正せずバイオマス発電事業調査研究を中止します。

農業施設 雪害補助に

修正動議 否決

賛成 2
反対 11

採決の結果

修正動議 発議者 早坂 通・松岡 好雄

修正案の内容

バイオマス発電事業調査費385万5千円を増額すること。

提案理由

産業革命以降、化石燃料によって産業は発展し、わたしたち人間の生活は豊かになりました。しかし、石油などの化石燃料は近い将来枯渇すると言われているため、世界で自然エネルギーの研究開発がおこなわれています。今後、自然エネルギーは普及拡大することは確実です。榛東村でも職員各位の努力によって調査研究する機会に恵まれたので、途中で投げ出すようなことはせずに調査研究を進めるべきです。そして、今回の補正予算の重大な問題は、バイオマス発電事業調査研究補助金を計上した平成26年度予算が、3月定例議会で成立したばかりなのに、補助金が3割カットされ、補正予算を組むことは議員に申し訳ないということを理由に、バイオマス発電事業の調査研究を中断することです。補正予算は、このようなときこそ組むべきものなのです。

このような理由にならない理由によって、全員賛成で議決したバイオマス発電事業調査研究費補助金385万5千円の減額補正を認めることは、村の最高意思決定機関としての議会の存在意義と、議員の最も重要な権利である表決権を議員自らが否定することになります。今回の減額補正は、このように議会、議員にとって重大な問題なのです。

議員各位には賢明な判断をして頂けると確信していることを申し上げ、提案理由の説明とします。

反対討論

小山 久利

事業実施となると、原料となる木くず、植物雑草、家畜の糞尿などの安定確保には、輸送体系の確保や臭気対策が必要で、家畜糞尿については畜産農家の減少が顕著で多くを望めないのが現状です。また、事業化には8億円以上の膨大な費用が必要となることが予想されます。よって、榛東村での事業化というのは、まだ先の話になり、調査研究も個々の段階でやればいいと思います。

賛成討論

松岡 好雄

北海道でバイオマス発電事業の研修をした結果、バイオマス発電事業は、事業化して採算が合うと判断しました。よって、調査研究をすることは村の活性化になるとともに、自主財源確保につながると確信しております。調査研究を中断することは断固反対です。また、バイオマス発電事業調査補助金が計上された当初予算を3月定例議会で議決したばかりであるにもかかわらず、補助金が3割カットされたことを理由にしたバイオマス発電事業の調査研究の中断は納得できません。

反対討論

松井 保夫

調査研究の補助金が満額出ないこと。八王子市のバイオマス発電事業が頓挫していること。発電しても東電に売れない状況が生じていること。以上の3点を考えると、補助金がカットされたことを機にバイオマス発電事業の調査研究を中止することは理解できます。

修正案 2対11 否決

賛成した議員

松岡 好雄
早坂 通

反対した議員

清水 健一
松岡 好雄
早坂 通
岸 昭勝
岩田 好雄
柳田キミ子
金井 佐則
南 千晴
松岡 稔
小野関武利
山口 宗一
小野関武利
松岡 稔
南 千晴
金井 佐則
柳田キミ子
岩田 好雄
岸 昭勝

原案 11対2 可決

賛成した議員

清水 健一
松岡 好雄
早坂 通

反対した議員

松岡 好雄
早坂 通
岸 昭勝
岩田 好雄
柳田キミ子
金井 佐則
南 千晴
松岡 稔
小野関武利
山口 宗一
小野関武利
松岡 稔
南 千晴
金井 佐則
柳田キミ子
岩田 好雄
岸 昭勝